

2010 年合格目標
行政書士公開セミナー

はじめての行政書士受験

ゼロから目指す行政書士

●CONTENTS●

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. ゼロから始める学習プラン2. 行政書士の仕事3. 資格取得後の展望4. 2010 年試験概要5. 学習を始めるにあたって |
|---|

TAC行政書士講座

1. ゼロから始める学習プラン

	通学を検討	通信を検討	独学を検討
おすすめ	入門総合本科生 教室講座	入門総合本科生 通信講座	独学道場 (T A C出版)
基礎期	入門テキスト 基本テキスト トレーニング(過去問) ミニテスト 科目別答練 学習媒体：生講義	入門テキスト 基本テキスト トレーニング(過去問) ミニテスト 科目別答練 学習媒体：DVD、Web	合格テキスト 合格トレーニング ※市販書籍 学習媒体：DVD
直前期	総合答練 公開模試 直前答練 オプション講座※	総合答練 公開模試 直前答練 オプション講座※	公開模試 40字記述演習

※オプション講座は別途申込が必要です。

2. 行政書士の仕事

(1) 行政手続の代理

建設業・不動産屋・飲食店などの営業許可申請や更新に関する手続や、外国人の帰化や在留許可に関する手続などは、法令等の規定に則り、必要な書類を正確に作成し、添付書類を不備なく集めて、官公庁へ提出し、受理してもらわなければなりません。こういった行政手続は、本人でも行えますが、煩雑でわかりづらい作業であるため、行政手続の専門家である行政書士が必要とされています。

(2) 民事法務

最近では、遺言相続に関する相談（例えば、遺言書や遺産分割協議書の作成に関する相談）や消費者問題に関する相談（例えば、クーリングオフや契約解除に関する相談）などを専門分野とし、市民に身近な法務相談の専門家として活躍されている行政書士の方も増えてきました。

(3) 商事法務

行政書士は、株式会社やNPO法人の設立に関連する業務も行っていますので、自分のキャリアと行政書士資格の双方を活かし、起業家支援を含めた経営サポートやNPO法人の運営サポートといったコンサルティング業務を展開していくことも可能です。

3. 行政書士資格取得後の展望

(1) 概 要

行政書士試験は、憲法・民法・行政法など基本法の知識が問われる試験です。そのため、法律系国家資格の登竜門ともいえます。資格取得は、ダブルライセンスを目指す方、公務員試験の受験や法科大学院への進学を考えている方にも最適ですし、また、行政書士資格単体でも独立開業することが可能な資格です。

(2) ダブルライセンス

資格業の実務の観点からは、行政手続という幅広い間口を独占業務に持つ行政法務のゼネラリストである行政書士の資格に、労務のスペシャリストである社会保険労務士の資格や登記のスペシャリストである司法書士といった資格を組み合わせることで、業務に奥行きを持たせることができます。

学習の観点からは、公務員試験、法科大学院入試、宅建試験など、試験科目が重複する他資格の学習にも応用できます。

(3) 公務員・法曹を目指す方の試金石として

入門総合本科生クラスでは、特に、憲法・民法・行政法について時間をかけて基礎からじっくり学習を進めていきます。そのため、行政書士試験の学習を本科生クラスで行い、資格を取得することは、将来、公務員試験受験や法科大学院進学を視野に置いている方にとっては、法律の勉強に対する適性や基礎力の育成としても最適です。

(4) 独立開業

本来、行政書士資格は独立開業型の資格ですので、この資格単体での独立開業も可能です。自宅を兼事務所にした開業（SOHO型の独立開業）も可能ですので、他の職種に比べ、少ない費用での独立開業が可能な点も魅力の一つです。また、資格取得後の登録期間に制限はないため、時間に余裕があるうちに資格だけ取得しておいて、将来、家事・育児・仕事にある程度の目途がついた時から実務を始めることも可能です。

4. 2010 年試験概要

(1) 試験概要（予定）

実施日	平成 22 年 11 月 14 日（日）
試験時間	13 時～16 時（3 時間）
受験資格	特になし
願書提出	8 月上旬～9 月上旬
試験内容	法令科目（46 問、マークシート式および 40 字記述式） 一般知識科目（14 問、マークシート方式）

(2) 合格基準

- ◆全体の 60%以上の得点 (300 点満点中 180 点以上)
- ◆ただし、一般知識科目で 40%以上の得点をすることも条件 (24 点以上が基準点)

(3) 平成 20 年度試験出題内訳

		五肢択一式	多肢選択式	記述式
法令 46 問	基礎法学 8	2 問	—	—
	☆憲法 28	5 問	1 問	—
	☆行政法 112	19 問	2 問	1 問
	☆民法 76	9 問	—	2 問
	商法 20	5 問	—	—
一般知識 14 問	政治経済社会 24	6 問		
	☆情報通信・個人情報保護 20	5 問		
	☆文章理解 12	3 問		
配点		1 問 4 点	1 問 8 点	1 問 20 点

5. 学習を始めるにあたって

(1) 基本スタンス

INPUT (講義) と OUTPUT (問題演習) の繰り返し。

(2) OUTPUTを中心に！

- × 全体を学習してから、模試をたくさん受ける。
- キリのいい箇所まで進んだら、その範囲で解ける問題を解いていく。



テキストだけではなく、問題集などアウトプット用の教材が必要！

⇒TAC入門総合本科生：ミニテスト、科目別答練、模試、トレーニング

注意点！

初学者の方が通学講座・通信講座を利用する際は、アウトプットツールとして、講義回別のもの、科目別のもの、試験範囲全体のものといった3パターンで練習できる環境（過去問&新作問題）が整っていることが望ましい。

(3) 学習の順序

①入門講義で、全体構造を把握する。この時点では問題演習は行わなくてもよい。



全体の体系を理解した上で

②基本講義で、試験合格に必要な知識を学び、過去問演習や確認テストを通じて、問題を解く力をつけていく。

注意点 1

「憲法→民法→行政法→一般知識→商法・基礎法学」という順で進めるのが理想的。

注意点 2

「答練」と呼ばれる模擬試験は、初期段階では受ける必要はなく、試験1ヶ月前あたりから利用すれば十分です。初期の学習段階における「問題を解く作業」は、全科目分をまとめて解くのではなく、小さなブロック別に解いていくことが大切です。



一通りのINPUT・OUTPUTが終了したら

③直前期には、本試験スタイルで模擬試験（答練）を受け、身につけた知識の精度を高めて、本試験対応に仕上げていきます。